

平成 26 年度第二期第 2 回 一般社団法人日本生物物理学会 理事会議事録

日時：2014 年 9 月 25 日（木）12：20～13：20

場所：札幌コンベンションセンター 1 階 104+105 室（会議室）

出席者：理事総数 17 名 出席理事 15 名（代表理事を含む。）

代表理事（会長）	七田 芳則	理事（副会長）	有坂 文雄
理事（副会長）	船津 高志	理事	石森 浩一郎
理事	伊東 大輔	理事	今元 泰
理事	金城 政孝	理事	佐甲 靖志
理事	須藤 雄気	理事	高橋 聡
理事	寺北 明久	理事	根岸 瑠美
理事	林 久美子	理事	政池 知子
理事	村上 緑		

監事総数 2 名 出席監事 1 名

監事 難波 啓一

オブザーバー：

会誌編集委員長 原田 慶恵

BIOPHYSICS 編集委員長 石渡 信一

ホームページ編集委員長 由良 敬

平成 27・28 年度会長候補 中村 春木

第 53 回年会実行委員長 安藤 敏夫

国際担当 野地 博行

地区担当 関 安孝（東北）

太田 善浩（関東）

秋山 修志（中部）

篠原 康雄（中国四国）

寺沢 宏明（九州）

陪席者：

学会本部事務局 垣内 香里

議長：代表理事（会長） 七田 芳則

議事録作成者： 理事 伊東 大輔

報告および審議事項：

報告事項：

1. 平成 26 年度年会報告（金城・石森）：報 1
2. 平成 27 年度年会準備状況（安藤）：報 2
3. 平成 29 年度（2017 年）年会開催地について（七田）：資料なし
4. 男女共同参画・若手支援委員会報告（有坂）：報 4

5. 賞・助成金推薦委員会報告（船津）：報 5
6. 会誌編集委員会報告（原田）：資料なし
7. BIOPHYSICS 編集委員会報告（石渡）：資料なし
8. IUPAB2020 招致活動報告（野地）：報 8

審議事項：

1. IUPAB 招致に向けた WG の設置について（七田）：資料なし
2. BIOPHYSICS の現状と次年度の科研費申請について（船津・七田）：資料なし
3. 広告募集要項の改訂について（船津）：議 3

議事の経過の要領およびその結果：

理事会の審議に先立ち、会長より、定足数を満たしており、定款第六章第三十二条の規定により理事会が成立していることが報告された。会長が議長に就き、開会を宣言し審議に入った。

報告事項：

1. 平成 26 年度年会報告（金城・石森）：報 1

川端年会実行委員長に代わり石森年会担当理事から、平成 26 年度年会について報告があった。演題登録数、事前参加登録数、事前懇親会登録数ともに京都年会よりも多くの登録があった。収支に関しては、現時点での収支予測としては 23,478 円の黒字であるが、アプリ制作費を含めない場合 1,157,478 円の黒字が見込まれていた。次年度以降のアプリの導入に関しての質問があり、今後中西印刷の含め他社のアプリを使用する等費用を減額する事ができないか検討していく事となった。

2. 平成 27 年度年会準備状況（安藤）：報 2

安藤年会実行委員長から平成 27 年度金沢年会準備状況について報告があった。シンポジウム（公募、新学術領域）、オーガナイズドセッション、一般口頭発表、ポスター発表、市民講演会を実施予定。例年と異なる点は、オーガナイズドセッションを設ける点である。シンポジウムは 27 枠と多めに開催し、またオーガナイズドセッションを 6 枠設けている。オーガナイズドセッションは、比較的メンバーの多い分野の方から 2~3 名を選びオーガナイズする事を検討している。全体のプログラムの半分を一般口頭発表にする。一般口頭発表の希望が多い場合は、各分野の査読者を選定し、振り分けを依頼する。

札幌年会を参考に予算案を作成し、現時点では赤字にはならない見込みである。石川県、金沢市からの補助を要請する。

3. 平成 29 年度（2017 年度）年会開催地について（七田）：資料なし

七田会長より平成 29 年度年会開催地についての報告があった。山縣氏を代表とし、山縣氏、現九州支部長の寺沢氏を中心に、九州大の神田氏、九工大の安永氏と協力して準備を開始する。

4. 男女共同参画・若手支援委員会報告（有坂）：報 4

有坂男女共同参画・若手支援委員長より委員会活動の報告があった。まず男女共同参画

学協会連絡会についての報告があった。1)過去 3 回行った大規模アンケートに関して、解析をするためのアンケートフォローアップ WG 活動が再開された。2)女子中高生夏の学校 (2014 年 8 月 7 日～9 日@国立女性教育会館) に有坂委員長、根岸理事、楊氏 (若手の会) が参加し、ポスター展示、パンフレット・クリアファイル提供を行った。3)連絡会シンポジウムが 10 月 4 日に東京大学駒場キャンパスで開催される予定で、有坂委員長が出席予定。

続いて若手奨励賞選考について報告があった。本日午前中に 10 名の若手招待講演が行われた。選考過程としては、10 名の審査員に第 1 次書類選考 (6 月上旬～下旬) をお願いし、選考された 10 名が本日講演 (第 2 次選考) を行った。応募者総数が 32 名と昨年度より 11 名減少しており、検討しなければならない。

翌日 (9 月 26 日) に男女共同参画・若手問題シンポジウムが開催される。今回は新しい取り組みとして、坂内氏に講演をお願いし、その後グループディスカッションを行う予定。

昨年 12 月に東京・大阪開催のリバネス社「サイエンス・キャッスル 2012・2013」に出展した。林理事、瀧ノ上氏が参加し、ポスター展示・デモ実演・パンフレット配布を行った。

5. 賞・助成金推薦委員会報告 (船津) : 報 5

船津賞・助成金推薦委員長から、これまでの候補者推薦についての報告があった。研究助成に関して、通常は応募者が多く、この中から推薦者を決定していたが、本年度は応募者がなく他薦で推薦者を決定した。助成金推薦者を他薦する必要性に関しては次回の理事会での審議事項とする。

6. 会誌編集委員会報告 (原田) : 資料なし

原田会誌編集委員長から会誌編集委員会の報告があった。邦文誌が 54 巻 1 号より電子ジャーナルとなった。グラフィックアブストラクトの導入し、この中から表紙を選定するなどの工夫をしている。収支について、電子ジャーナル化に伴い 450 万程度の費用が削減できた事が報告された。

7. BIOPHYSICS 編集委員会報告 (石渡) : 資料なし

石渡 BIOPHYSICS 編集委員長から BIOPHYSICS 編集委員会の報告があった。投稿数・掲載数が当初の予定通りには増加していないので、積極的に投稿するようアナウンスされた。インパクトファクター獲得のためにも投稿して欲しいとの事であった。科研費を有効に使い、海外からの投稿に関しては現在投稿料を無料としている。その他、BIOPHYSICS 論文賞、Editor's choice Award の表彰を懇親会で行う事を予定している。

8. IUPAB2020 招致活動報告 (野地) : 報 8

野地氏から IUPAB2020 招致活動について報告があった。まず Brisbane で開催された 2014 congress についての報告があった。参加者は減少し 42 カ国から 855 人であった。日本人の参加者は 66 名程度であり、日本人の招待講演者数は 7 名であった。次に、2014 理事会について報告があった。次期会長 (2017-2020) として、Marcelo Morales 氏 (ブラジル) が選出された。新理事として野地氏が選出され、第一回理事会に野地氏も出席した。また、2020 congress 誘致活動について報告された。IUPAB Congress 2014 開催中に、BSJ メンバーおよびサポートメンバーで誘致活動 (Japan Night、General Assembly プレゼン等) を行った。

結果として、およそ 2~3:1 で Brazil Rio が選出された。Rio の勝因として、Marcelo 氏に対する高い評価や Latin 諸国の固定票が挙げられる。次の 2023 年招致活動に向けて動き始めて良いのではという事であった。

議題：

1. IUPAB 招致に向けた WG の設置について（七田）：資料なし

七田会長から IUPAB 招致に向けた WG の設置についての説明があった。野地氏を委員長、永井理事を副委員長とした WG の設置について提案があり、理事会で承認された。

2. BIOPHYSICS の現状と次年度の科研費申請について（船津・七田）：資料なし

七田会長から BIOPHYSICS の現状と次年度の科研費申請について説明があった。今年科研費が採択されたが、BIOPHYSICS を発展させるために次年度も科研費申請を行う事が説明された。科研費の使用例の一つとして、石渡編集委員長の業務補佐として事務員を雇用し、現在既に事務局で業務を行っている事が報告された。科研費が 1 年間のため、次年度以降の雇用については改めて理事会で審議する。次年度の科研費申請について、理事会で承認を得た。

3. 広告募集要項の改定について（船津）：議 3

船津出版委員長から広告募集要項の改定について説明があった。IUPAB タスクフォース (Application of Biophysics) の記事募集のため、広告募集要項を改定し、新たに「新技術紹介ページ」を加える。また、古い情報の改定やアプリに関する情報の追加を行った。改定内容について理事会で承認を得た。年会中に企業との意見交換会があり、企業側からの意見によってはさらに改定する可能性がある（注：9 月 27 日の「企業との意見交換会」において、企業から修正の希望はなかった）。

連絡事項：

1. 次回理事会日程について（七田）

臨時社員総会 9 月 25 日（木）18:40~19:40 札幌コンベンションセンター1 階 104+105 室
第 3 回理事会 9 月 27 日（土）12:30~13:30 札幌コンベンションセンター1 階 104+105 室

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は 13:20 に閉会を宣言して散会した。

上記の議決を明確にするため、定款第六章第三十三条の規定によりこの議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名押印する。

平成 26 年 11 月 21 日

一般社団法人 日本生物物理学会 平成 26 年度第二期第 2 回理事会

代表理事 七田 芳 則 (印)

監事 片岡 幹 雄 (印)

監事 難波 啓 一 (印)